

おわりに

委員長として、約1年にわたり本委員会に携わり、ここに答申を取りまとめられたことに安堵している。次期中間処理施設整備事業の検討は、全国にも類を見ない公募形式での用地選定プロセスにおいて、将来を危惧し新たな地域の活性化を図ろうという強い気持ちを持った地域住民からの応募提案が起点となっている。したがって、検討においては、「迷惑施設」というマイナスの価値から、地域振興策との融合によりプラスの価値に転換する事業構想を描くことが求められた。

これまで、建設候補地の地元町内会である印西市吉田区の住民委員と、印西地区の関係市町の公募委員の方々の参加を得て、真剣かつ熱心な議論を続けた。また、毎回の委員会会議には、一般住民の方々から有益な意見書も多数いただいた。さらに、印西市吉田区と印西市松崎区とのそれぞれ2回の建設候補地周辺住民意見交換会、印西地区全体への検討結果説明会の開催及び答申案に対するパブリックコメントなど広く意見を求めた。このように徹底して開かれた議論のプロセスを経てきたからこそ、印西地区の住民の方々に納得して頂ける成果として取りまとめることが出来たと感じている。

これまでの検討を通じて印象深いことは、選定された建設候補地周辺の住民の方々の次期中間処理施設整備事業に対する先進的かつ積極的な意識の高さである。次の施設更新時にも歓迎されるよう共に育み、築き上げていこうとする姿勢には、只々頭の下がる思いである。

昨今、廃棄物処理施設は、生活水準の向上やライフスタイルの変化に伴いごみ量が増加する一方、ダイオキシン類問題、多様な自然災害など様々な時代変化を経て、単にごみを衛生的に焼却減容化処理する施設に止まらず、東日本大震災以降は地域の自立・分散型エネルギー拠点としての重要性が再認識され、地域のエネルギーセンターとしての役割が期待されるようになってきた。また、次世代を背負う若者たちが将来に明るい希望を持てる環境を維持し、地域活性化の一助となる施設としても期待されているところである。本委員会及び地域振興策検討委員会の議論において私共は、正に「印西市吉田区」に今後の廃棄物処理施設のあるべき姿を重ね絵図のように描こうとしたのである。

「この事業は、高齢化と若い世代の流出が深刻化する当地区の地域コミュニティの存続危機脱却の糸口になるだけでなく地域活性化の起爆剤になる」と、周辺住民との意見交換の中で意見があったが、とても印象深く頭に焼き付いている。必ずや当該事業が現実のものとなり、全国から注目されるモデル事業として展開されていくことであろう。

しかし、本当に大切なのは、これからである。先進的な事業であっても、その成否はこれからの地域住民と行政の連携、関係する事業者等の支援、印西地区の住民の方々の理解など、各主体のパートナーシップ、そして関係市町の首長の方々の責任とリーダーシップにかかっている。本事業が、その形成プロセスを含めて全国に波及していくような「印西モデル」として実現することを強く信じ、微力ながら今後も応援していきたい。

末筆ながら、本委員会を代表し、調査・審議の過程で実施した周辺住民意見交換会に出席していただいた印西市吉田区と印西市松崎区の両町内会の皆様をはじめ、パブリックコメント含め各委員会会議において貴重な意見をいただいた皆様、また、委員会の調査・審議に関し、ご多用の折ご協力をいただいた関係各位に心から感謝申し上げます。

次期中間処理施設整備事業施設整備基本計画検討委員会 委員長 大迫 政浩

